

第 2 回 研究所若手アンサンブルワークショップに参加し研究成果を発表しました (2016/7/12-13)

テーマ：研究所若手アンサンブルプロジェクト

URL：http://www.fris.tohoku.ac.jp/institutes_ensemble/

場所：東北大学金属材料研究所 講堂

7月12日から13日にかけて、金属材料研究所において第2回研究所若手アンサンブルワークショップが開催されました。研究所若手アンサンブルプロジェクトは、東北大学の附置研究所・センターの連携による研究活動の活性化を目的に、2015年度から実施しているプロジェクトです。

初日に開催されたポスター発表では、本研究所から下記4名が参加し、他研究所との交流および今後の共同研究に向けて熱い議論を交わしました。

また、翌13日には、前年度グラントに採択された各共同研究の成果報告会がおこなわれました。本研究所からは、稲葉洋平助教（災害医学研究部門）が昨年度の研究成果を発表し、今後のさらなる学際研究に向けた議論を展開しました。

若手アンサンブルプロジェクトは、今後研究所間のさらなる連携と新たな共同研究の進展に向けた取り組みを実施し、若手研究者間の横断的な交流をお手伝いしていきたいと思います。今回のワークショップが新たな研究の進展に寄与することを期待しております。

【ポスター発表一覧】

岡田真介助教（災害理学研究部門）「内陸直下型の地震を発生させる活断層の調査」

寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）「大規模災害における地域連携による事業継続の方策」

杉安和也助教（リーディング大学院）「東日本大震災後の実践的津波避難訓練の取り組み」

天野真志助教（人間・社会対応研究部門）「自然災害を想定した地域文化財保存・継承」

【グラント成果報告】（下線は、災害研所属教員）

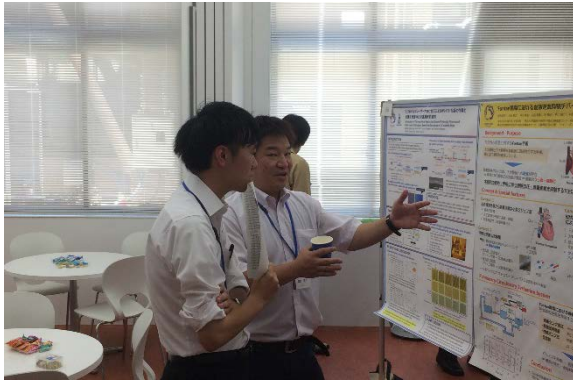
稲葉洋平助教（災害医学研究部門）ほか「SLE患者に対する非侵襲的MR脳機能画像法を用いた
新たな診断法の開発」

石原真吾，森口周二（地域・都市再生研究部門）「崩壊までを含めたシミュレーションによる地盤
陥没災害の予測」

藤岡悠一郎ほか，Sebastien Penmellen Boret（情報管理・社会連携部門）「東日本大震災後の
コミュニティ再生・創生プロセスと持続可能性に関する実証的共同研究」

文責：天野真志（人間・社会対応研究部門）

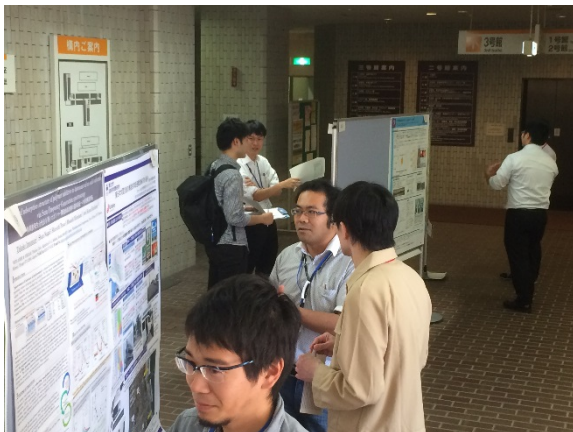
（次頁へつづく）



岡田真介助教（災害理学研究部門）



寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）



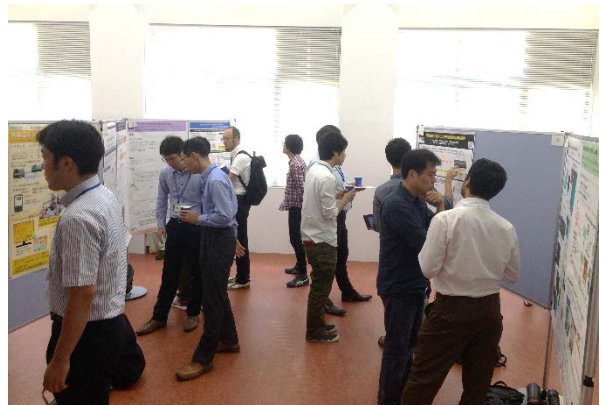
杉安和也助教（リーディング大学院）



天野真志助教（人間・社会対応研究部門）



稲葉洋平助教（災害医学研究部門）



ポスターセッション風景